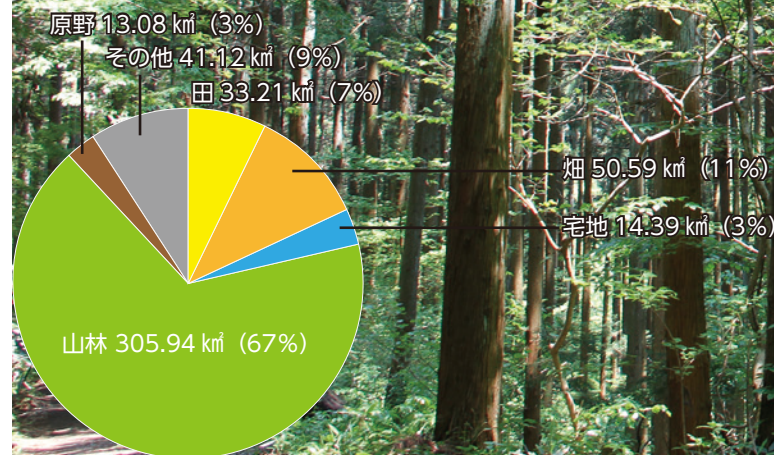


命と心を育む源

5月31日、田村地方緑化推進委員会（会長：富塚市長）主催で、平成28年度田村地方植樹祭が市運動公園クロスカントリーコースで開催されました。

主催者式辞の後、表彰が行われ、市内では緑化功労者を遠藤忠夫さん（都路町）、安藤嘉一さん（船引町）が、学校環境緑化推進校を常葉中学校が受賞しました。その後、主催者・来賓・表彰者などが緑小学校・美山小学校・要田小学校のみどりの少年団と一緒に、6種類101本の苗木を植えました。この苗木1本1本に、森林の大切さへの思いが込められています。



▲田村市の地目別の土地面積 (H28/1/1 現在)

お茶と水

私 たちが日常的に口にする飲み物といえば、お茶があります。お茶は昔の中国で発祥し、世界各地に伝わっていききましたが、そもそもなぜお茶が飲まれるようになったのでしょうか。

ほとんどの国では、川の水を飲むことができませんでした。汚れていて、何より雑菌が多いため人体に危険です。そこで、飲めない水をどうにかして飲む方法として、まず煮沸して殺菌



すること、そして植物の味と香りをつけることが考え出されました。お茶は必需品だったのです。

一方、日本では、ひと昔前までは都会でも川の水を飲んでいました。飲料水に不足していなかったわけですから、日本ではお茶を必需品ではなく、葉や嗜好品として受け入れました。

それでは、どうして日本の川の水はきれいなのでしょう。それこそ、山林の効用のおかげなのです。日本列島の中央には山脈が走っています。山の森林が雨水をため、落ち葉や土壌が水を濾過すること、きれいでおいしい水を川に供給しているのです。

これが「水源の涵養」ということです。

地球温暖化対策

次 に、大きい問題を例として挙げましょう。地球温暖化です。

温暖化によって異常気象が増え、大きな災害が増えていると指摘されています。温暖化の主な原因は、大気中の二酸化炭素の増加です。植物は二酸化炭素を吸収して酸素を放出するので、森林は大気中の二酸化炭素を減少させます。この機能が「地球環境の保全」ということになります。

そこで、国際的な植樹活動や、企業の緑化活動が行われているのです。

また、都市の温暖化（ヒートアイランド現象）対策として、自治体も公園に木や花を、道路に街路樹を植えています。

森林の効用

「森」は水を蓄え、洪水を防止し、緑とのふれあいにより健康と安らぎを与えるなど、さまざまな効用を持っています。この自然の恵みは、後世に残していかなければなりません」と富塚会長は田村地方植樹祭で式辞を述べました。

供給などにより地球環境を調節。

- 土砂災害の防止、土壌の保全：木や草の根が土壌を押さえ土砂崩れなどを防止。落ち葉などの栄養を土壌、河川を通じて海へ供給。
- 水源の涵養：雨水を貯蓄・供給。土壌が水質を濾過。
- 快適環境の形成：蒸発散作用により気温を調節。風や音を防止。
- 保健・レクリエーション機能：キャンプや登山などの場を提供。
- 物質生産機能：食糧、原料、燃料、肥料などを生産。とはいえ、森林の効用は実感しにくいものです。そこで、身近な例をご紹介します。

森林の広さ

日 本では森林が国土の約7割を占め、田村市も面積の約7割が森林です（上グラフ参照）。森林が多い場所です。暮らしているからこそ、その効用に気づきにくいのかもかもしれません。

ちなみに、世界全体で見ると、森林は陸地の約3割にすぎません。

子どもたちの活動

教 育の場では森林保全や緑化の活動が盛んです。

5月25日、第37回福島県緑の少年団活動実績発表大会で、緑小学校みどりの少

森林保全は身近で重要な問題ですが、現状では、教育の場を除くと、森林に親しんだり、森林について考えたりすることが少なくなっているかもしれません。

平成30年度には、福島県で全国植樹祭が開かれます。それに向けた苗木のスクールステイ（ドンブリの種植え）が、昨年11月には要田小学校と緑小学校で、12月には船引小学校で行われました。また、苗木のホームステイ（植樹祭等で使用する苗木の育成）への参加者は、現在募集しているところです（☎産業部農林課 81-2511）。皆さんも森林保全について、家庭、学校、職場、地域で、あるいは自分自身で考えてみてはいかがでしょうか。



▲田村地方植樹祭で植樹する富塚会長とみどりの少年団 (5/31)



▲常葉中学校では青少年赤十字委員会が校内で緑の募金活動を行いました

年団が福島県知事賞を受賞しました。

常葉中学校では、青少年赤十字委員会が校内で緑の募金活動を行い、6月7日に募金を市に手渡しました。小中学校では、森林保全の啓発に力を注いでいます。